

# 地域への愛着を深める北小っ子の育成

～歴史・文化・自然・人との関わりを通して～

## 安城市立安城北部小学校

### 1 実践のねらい

地域の歴史・文化・自然等について、豊かさや特色を子どもの目を通して明らかにする活動を展開していく中で、地域の人と一緒に活動したり、取材したり、助言や指導をいただいたりする機会をもち、郷土に対する理解や愛着を深め、地域を大切にしようとする心情や態度を育成する。

### 2 実践の内容

#### (1) 北小ふるさと会議

北小ふるさと会議（5月2日）では、学区町内会長や老人クラブ代表の方たちと各学年の活動のねらいや計画について話し合い、アドバイスをいただいた。地域へ出かけて体験したり、お話を聞いたり学んだことを伝えたりする活動に対して見通しをもち、意欲を高めることができた。そして、1月・2月に感謝の会を開いた後、3月12日に2回目の会議をもった。

#### (2) 地域の人たちとの絆を深める活動

##### ア 町探検を繰り返し地域のよさを知ろう（2年生）

2年生ではまずお気に入りの場所である地域の公園巡りをした。その後、途中で見つけた店舗や施設について秘密を探り、自分たちの町のマップを作ろうと呼びかけ、詳しく調べる活動に取り組んだ。各学級を7グループに分け、学区内16の店舗や施設を取り上げた。グループごとに同じ店舗や施設に出かけ、「あいさつ探検」「インタビュー探検」「お手伝い探検」と名付けた3回の取材や体験を繰り返した。子どもたちは店の人との交流を深めると共に、共通に与えた「人」「お店（たてもの）」「仕事」「品物」という観点で秘密を探っていった。取材や体験を繰り返すことにより、秘密を伝えたいという気持ちを高めた子どもたちは、秘密発表会を行った。その際、自分たちの調べた場所と比較して聞くことで、さらにそれぞれの店舗や施設のよさに気付くことができた。その後、写真を中心にマップを完成させたり、紹介文を書いたりした。書きたいことが多くまとめるのに困るほど、理解や愛着を深めることができた。まとめたものをお礼の手紙と共に訪問先へ届けた。



美容室でお手伝い

##### イ 今村楽寿会と交流しよう（3年生）

3年生は地域のすてきな人を見つける活動から始めた。その中でいつも登下校の安全を見守ってくれているスクールガードの多くが所属する老人クラブ（今村楽寿会）の存在を知った。そこで、今村楽寿会の方はどんな活動をしているのかを調べていった。グランドゴルフや茶道教室、神社清掃など、楽寿会の方と一緒に活動して、会の方たちがどんな思いで活動しているのか追究を深めた。自分のため、人のため、地域のために活動していることを学び、分かったことなどを各自で新聞にまとめた。3学期には、楽寿会の方を招いて学習の成果を発表したり、感謝の会を開いたりすると共に、自分たちが地域のために何ができるかを考えていく予定である。



神社清掃後にインタビュー

#### (3) 地域の自然環境を保全する活動

##### ア 美しい猿渡川を取り戻そう（4年生）

4年生は理科の学習で春の生き物を探しに行った地域の川（猿渡川）に視点を向けた。川

に入って生き物探しをする体験から学習を始め、昔と比べて生き物が減っているという事実と出会わせた。その後、どうして猿渡川の生き物が減ってしまったのか、自分なりに答えを予想しながら追究を深めた。インターネットや書籍で調べるだけでなく、昔から今に至るまで猿渡川の環境に詳しい環境アドバイザー（猿渡川博士）や祖父母などから話を聞き、生活排水や護岸工事の影響、外来種の増加等原因を探った。今後、生き物が住みやすく、きれいな猿渡川を取り戻すために、自分たちができることを考え、活動し、身近な人へ広げていくことを予定している。



猿渡川で生き物探し

#### (4) 地域の歴史や文化を知り、未来に継承する活動

##### ア 地域の農業や食生活について考えよう（5年生）

5年生は身近な生活習慣である「食」を取り上げ、中心となる米について様々な体験活動を通して、地域の農業や食生活を考えていった。地域の農家から種籾をいただき、苗を育てることから始めた。その苗も使い、学校近くの田んぼを借りて地域の協力の下、田植えをする予定だったが、悪天候のためできなかった。そこで、学校の教材園近くに自分たちでミニ田んぼを作り、田植えや世話をを行った。稲刈りは近くの田んぼとミニ田んぼの両方で行った。体験と共に、農家の人に話を聞いたり、米作りの疑問について調べたりした。その後、食生活について見つめ直し、自分たちができることを考え、「ほくとまつり」（学校全体で取り組む総合学習の発表会1月28日実施）で学校全体にPRしていった。また、5年生児童が稲刈りをした田んぼで収穫された米を農家の方に寄贈していただいたため、「ほくとまつり」当日の昼食で保護者の協力によりおにぎりをつくり、全校児童でおいしくいただいた。



みんなで稲刈り

##### イ 東海道松並木を守ろう（6年生）

学区に存在する歴史的なものを探し、その中で通学路にもなっている身近な存在として東海道を取り上げることにした。まず江戸時代の旅人が利用した東海道を当時と似た格好で実際に歩いてみる体験から学習を始めた。体験から感じた疑問を交流する中で、松並木に焦点を絞り、追究していった。調べる中で、松並木保存会の存在を知り、話を聞いたり、一緒に清掃活動をしたりした。会の方から、「地域の役に立ち、また心の中に松のある風景をいつまでも残してほしい」という思いを教えていただいた児童は、今後も松並木を守るために自分たちができることは何かを考え、地域の歴史や今後の生活について考えを深めることができた。



東海道を歩く

### 3 実践の成果と課題

体験活動を積極的に取り入れ、学習を展開した。2年生の実践のように繰り返し訪問することができた学年もある。これにより、児童の意欲が高まり、追究活動も深まりを見せた。これもひとえに地域の方々のご協力があってこそである。依頼を快く引き受けただくとともに、学校側のねらいに沿って対処や助言をしていただくことができた。つながりがより密接となり、来年度以降の学習にも広がりが期待できる。また、スクールガードとして、登下校の安全を見守っていただいているの方々から、「自分からあいさつできる子が増えた」という言葉をいただくことができた。児童にとっても地域あるいは地域の人への愛着の深まりが感じられる。

多くの学年はまだ活動途中である。1月の「ほくとまつり」をはじめ、地域の方を招いての感謝の会など、地域へ広げる活動を計画している。能動的に地域に関わることのできる子を目指して、来年度以降も、地域とのつながりを大切に、教育活動を進めたいと考えている。